

投稿

## 1 会報第344号・平成29年1月号

### 厚木の自由民権運動と大阪事件

島口 健次

厚木の自由民権運動で大阪事件があった。その悲劇について述べたい。大阪事件は荻野を中心とする民権家を多数まきこんだ事件である。大井健太郎（自由民権家）は、日本全国で自由民権運動を展開することは不可能と分析し、朝鮮で革命を起こし、清朝支配下の政権を倒し、独立党の親日政権を樹立する。その結果生ずる日清間の緊張と対立を利用して、藩閥政府を危機に追い詰め、国内の民主化を図るためであった。そして明治18年大阪事件を起こしたのであった。大井健太郎は腹心の影山英子を連れて明治17年から厚木の荻野の自由民権家大矢正夫（山中小学校教員）、佐伯重三郎（山中小学校教員）、矢野政立（県議、衆議）、難波惣平（県議）、山川一郎（自由民権家）に働きかけたものである。そして朝鮮渡航のための資金獲得のため、荻野の豪農の岸十郎兵衛、厚木郡役所、座間の郡役所、座間の豪農大矢弥一等を襲撃し、強盗を行い、金品を強奪した。矢野らは荻野神社を参拝して、強盗成功の祈願をおこなっている。大阪事件は官憲にかぎつけられ、大阪と長崎で渡朝前に逮捕されてしまった。この大阪事件に関与した天野、大矢、佐伯、難波らは懲役6年の判決を受けたものである。

大阪事件は客観的には民権主義者の民権から国権への最初の大きな転換でもあった。この点に大阪事件が他の事件と区別される特色があった。厚木歴史研究会では、5年前からこの大阪事件の悲劇について講演会でアピールしている。

投稿

## 2 会報第344号・平成29年1月号

### 厚木の衣茂と堰神社の謎

島口 健次

厚木の長谷に衣茂がある。それは今から凡そ380年前の天正4年、長谷の玉川地域では、夏の降雨が殆んどなく、渇水甚だしく、用水堰の工事に苦心していた。時の領主、武井四郎左衛門利忠はこのことを大変憂いており、神に祈ったがその効が見えなかった。丁度その時（6月2日）、馬に乗った一人の山伏が現れ、『我は筑波の山に住む桂坊という者で、今大山に登ろうとしてここに来た。用水を求める汝らの志は誠に捨てがたい。よって大望を達しせしめ、庶民を安心させたい。明日の25日、大山から再びここに戻って来る。』と約束し、大山に向かった。この山伏は翌日、約束通りここに来て、利忠に告げて言った。『我はこの堰杭になろう。そうすれば土俵で築いても決壊することはないだろう。その代わり、この玉川に杭として名の付いたものは、たとえ小枝であっても、後世決して打ってはならない。そして我が靈魂は汝の家の近くに遷して祭ってくれ。然らば永く守護神として皆を守るだろう』と言い終わると、玉川の清き流れの水底に入って行って、行方不明になった。このため武井ら長谷の住民は宿坊を建立する一方近くに堰神社を建立し、山伏の桂坊をご祭神としている。この堰神社は長谷の鎮守となっているが、厚木地方には目下神社は69社あるが、ご祭神を人間とする神社は、この堰神社のみである。又、長谷には相模人形芝居の長谷座があり、国の無形文化財（民俗）に指定され、その碑が堰神社境内に建立されている。衣塔は玉川近くの田んぼの中に建立され、厚木では珍しい石造物となっており、ひっそりと立っている。